

「生産コストの低減につながりました」

北海道斜里郡小清水町 土壤医 佐藤富則

(北海道オホーツク土壤医の会 会長)

1. プロフィール

- ・有限会社佐藤農場代表 土壤医 64歳
- ・経営概要：23ha 畑作・野菜栽培（玉葱・種子馬鈴薯、食用馬鈴薯・てん菜・小麦・大豆）

2. 受験の取組み

就農当時から土づくり・肥料費のコストダウンに取り組んできました。具体的には、土壤分析とそれに対応した土壤改良・施肥設計そして単肥配合も取り組み、一定の成果も感じていました。各取組みを行う前提で、文献・農業誌なども参考にしましたが、トータルで土壤に関する知識を習得したいと考えていました。そこで、当初土壤医検定2級を目指し、東京へ2日間の研修会に参加しました。私たち北海道畑作農業では、農繁期の最中（10月中旬）で大変厳しい時期でしたが、こんな機会は滅多にないと研修会を優先にしました。睡魔との戦いの2日間でしたが、大変参考になり、現場では分からなかった点が次々解説され、特に生物性における有機物施用の要点・留意点などは、今まで初めて聞いた知識でした。私にとっては、生産技術に関わることが参考になり、早速経営の中に取り入れ、無駄な生産費を抑制することができました。研修会への参加自体が、経営にプラスになりました。

一例をあげると、北海道畑作物の中で、てん菜は肥料費ウェイトが大きな比重を占めます。生産費増大が収益を圧迫し年々耕作面積も減っているのが実情です。

私は、今までも単肥配合の取組みで、町内平均の70%のコスト削減をしていましたが、

資格取得に向けた学習の中で、より一層コスト低減が可能と認識し、「リン酸・加里肥料」の減肥や有機質肥料の地力窒素の効果発現が夏以降にあることを再認識し、従来行ってきた追肥を止めることができました。その結果、収量を落とさずに品質向上（糖分）を上げることができ、町内対比10aで58%・糖量1kgで53%の肥料コストを下げることができました。他の作物も同様です。



写真：単肥配合取組み（上、下）

翌年、1級試験に合格し、土壤医の資格を取得しました。

2級受験と合わせて1年以上受験勉強したことになります。この学習は、受験のためだけでなく、生産現場で生かしていけるものだと感じています。一定期間の受験勉強は決して無駄になりません。

3. 生産者こそ土壤医資格を取得することが必要

生産現場では次々出てくる土壤病虫害や、作物の生育障害、さらに高止まりした肥料コスト削減（規模の大きい北海道農業ではなお更です）など対策が急務で且つ難しいことばかりです。

体系的に基本から学ぶことは経営の大きな武器になります。また、試験合格後、継続的に学習しなければ、どんどん知識が忘れていくのも事実です。資格取得後も新知識も吸収しながら、一定の学習をしていかなければなりません。資格者は資格取得後、研修等での一定のポイント（CPD単位）の取得が義務付けられています。負担と思わず自身のスキルアップとそれを経営に生かすためと思ってはどうでしょうか。

生産現場の若いメンバーや・新規就農者はまず3級（土づくりアドバイザー）から、ベテラン農家や農場における、土壤管理者は当然2級（土づくりマスター）を目指すべきと思います。

きっと、農場における「土」の見方が変わると思います。

土壤医の活動を通じて、自分の経営はもちろん、地域農業技術の底上げにもつながると思っています。

4. 資格登録後の取組み

土壤医の資格登録後は、自己の経営の改善とともに、地域農業のレベルアップのため土づくりと取組んでおります。地域の取組みについては、2017年12月「北海道オホーツク土壤医の会」を組織化し、仲間と一緒に簡易土壤診断の実践や土壤診断と土壤改良の方法等について研修会を行っています。



写真：地域活動；簡易土壤診断指導



写真：土壤診断から土壤改良の
要点と施肥改善指導（後方左が筆者）

最近の勉強の成果として米ぬか散布の中止があります。米ぬかは馬鈴薯そうか病に効果があり使用してきました。近年、玉葱紅色根腐れ病が蔓延してきましたが、発病を助長していたようです。米ぬかの効果については、土壤医研修会での野口勝憲先生から米ぬかは糸状菌を増殖させる効果があるとの講義がヒントとなり、玉葱紅色根腐れ病は糸状菌なので一層助長をさせると感じました。それで米ぬか散布を中止したことによってコスト削減と玉葱紅色根腐れ病が抑制されて品質、収量ともアップしました。

現在では、輪作作物を導入するとともに、根痛みが少なくなるよう基肥肥料を削減し追肥で補うようにしています。